

NIE全国大会報告

④

日本新聞協会が二十五、二十六の両日、青森市で開いたNIE（教育に新聞を）全国大会では、全国の教育、新聞関係者が「新聞を

「大衆化する新聞教育」

パネル討議 質高い実践促す



新聞の有効活用について意見を交わしたパネルディスカッション

「読み解く力 新聞 NIE」をテーマにして「新学習指導要領と」たパネルディスカッションの冒頭、コーディネーターの児玉忠大会

教材としてどう生かすべきか」という課題を採った。今年度は授業で新聞を使うよう定めたり、活発な議論が交わされた大会の内容を紹介する。

実行委員長（弘前大教育学部教授）は「新聞教育の大衆化が始まった」と指摘した。

家庭の協力必要

パネリスト 提案相次ぐ 親子で読む効果も

新聞を使った授業はこれまで、関心のある教員が自主的に取り組み、成果を上げてきた。新しい学習指導要領で新聞が取り上げられたことは、全国のどんな学校、どんな教員も等しく新聞を扱わなければならないことを意味する。

児玉氏は「喜んでばかりはいられない。成果が上がらなければ、次の学習指導要領改定で新聞の記述がなくなるとも思えない。待つべきではない。成果が上がるためには、たなしの時だ」と述べ、教育界と新聞界が連携した質の高い実践活動

パネリストからは、新聞の良さを生かす工夫について提案が相次いだ。阿部昇秋田大教育文化学部教授は、一般記事、社説、コラムなど文章の種類によって書き方が違ったり、同じニュースでも新聞社によって捉え方が異なる点が新聞の魅力である

有していくことの重要性を説いた。全国学力テストで架空の新聞を使った問題を出題した杉本直美文部科学省国立教育政策研究所学力調査官は「子どもたちは新聞の価値を実感する機会が少ない。家庭と協力して場面をつくらなければならぬ」と指摘。千刈小（青森市）の大賀重樹教諭は新聞を使った授業の実践例を豊富に紹介した上で、「新聞が親子の絆を強める」と家庭で新聞を読むことの効果を語った。パネリストや会場の参加者からは新聞社の取り組み強化を望む意見も出され、南谷毅東奥日報社生活文化部長は「積極的に教育現場に入っていくことが重要な課題になる」と述べた。